

# 村上市景況調査報告

平成31年4～6月期の実績と令和元年7～9月期の見通し

調査時期：2019年6月中旬～2019年7月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 167社（回収率83.5%）

〔業種別内訳〕 卸売・小売業62社、建設業41社、製造業30社、飲食店・宿泊業21社、サービス業46社  
〔地区別内訳〕 村上地区104社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区19社、山北地区23社

実施機関：村上市地域経済振興課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

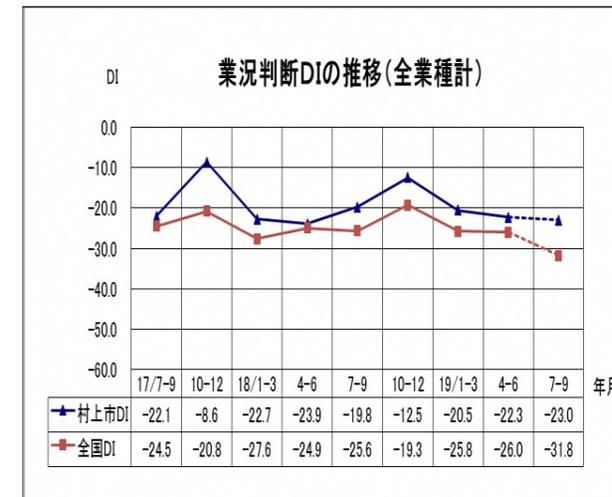
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】（2019.4～6実績、2019.7～9見通し）

日本政策金融公庫 総合研究所

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合（売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。）

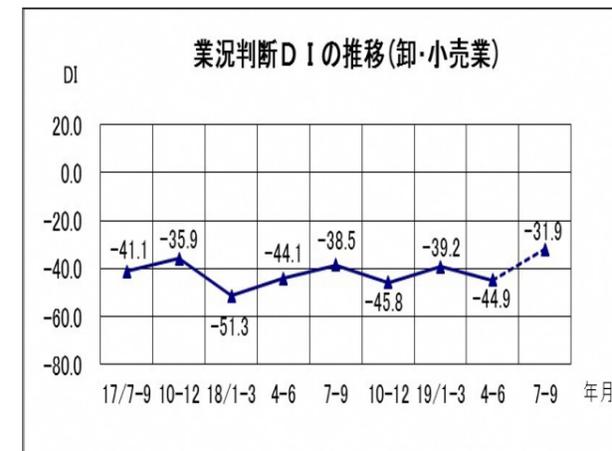
## 『業況は足踏み状態、先行きは慎重な姿勢が続く』

### ■村上市の業況



今期(19/4～6月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(19/1～3月期)と比べ、1.8ポイント低下し、▲22.3となった。低下は2期連続で、前期における今期予測より10.2ポイント下回っているが、前年同期比では1.6ポイント上回っている。今期DIが低下した要因は、卸・小売業、建設業、サービス業の3業種でDIが低下したため。

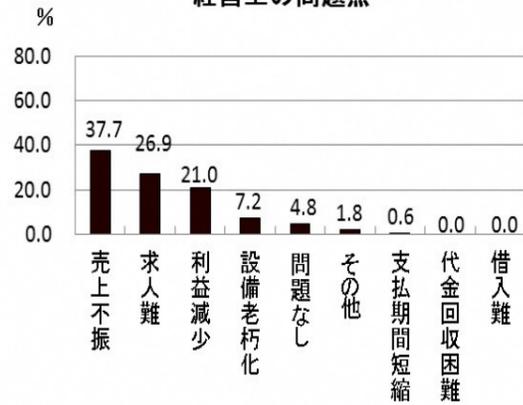
来期(19/7～9月期)については、更に0.7ポイント低下し▲23.0となる見通し。卸・小売業を除く全業種で低下が見込まれている。消費税増税前の駆け込み需要に一部期待感が伺えるが、新潟・山形地震による風評被害への懸念や人手不足の影響の深刻化、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦激化、世界経済の動向などの不透明感により、先行きは慎重な姿勢が続く。



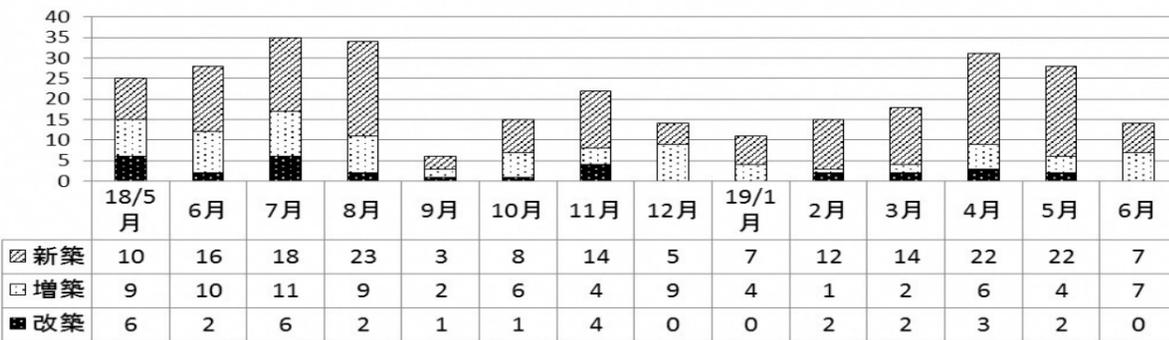
### 在庫状況の推移(製造業、卸・小売業)



### 経営上の問題点

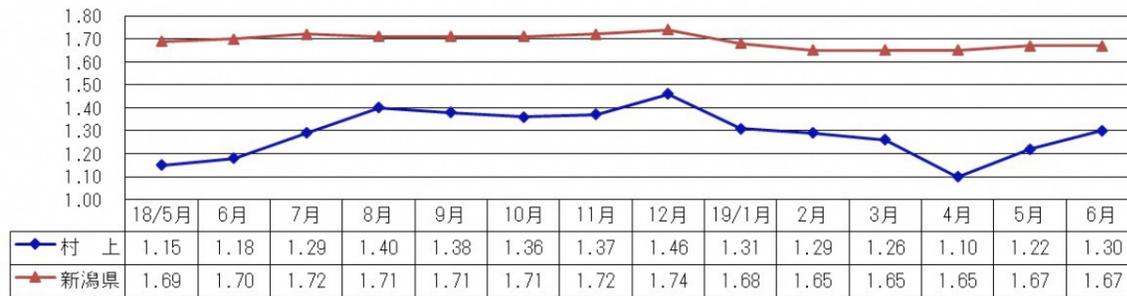


### 建築確認申請・工事届件数



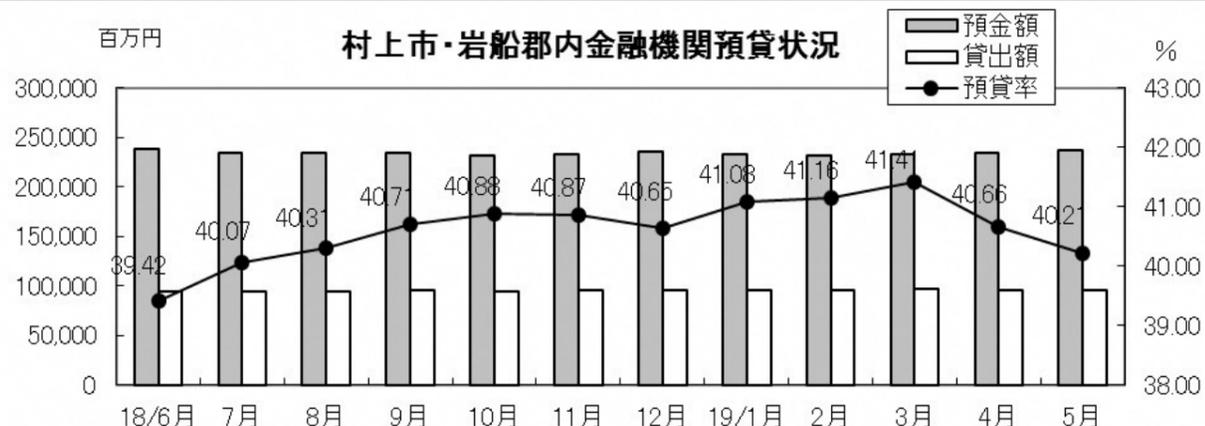
※本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります。

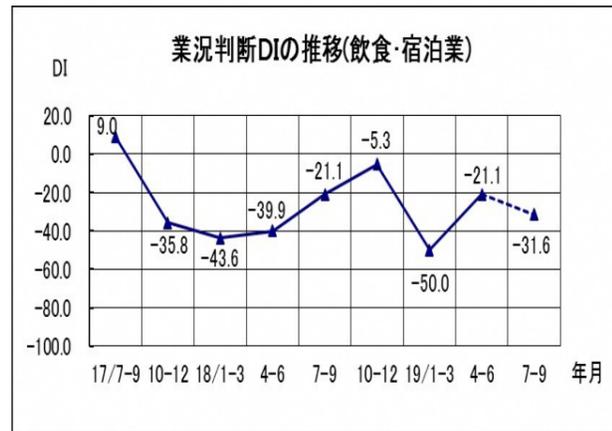
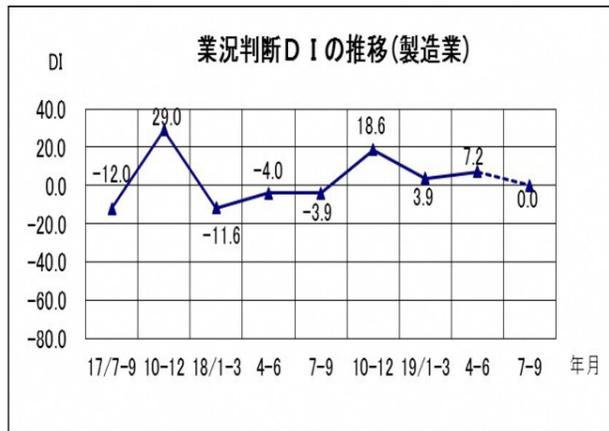
### 村上職安管内有効求人倍率(パートを含む全数)



※上記有効求人倍率は、季節調整値再計算により改訂した数値を記載しています。

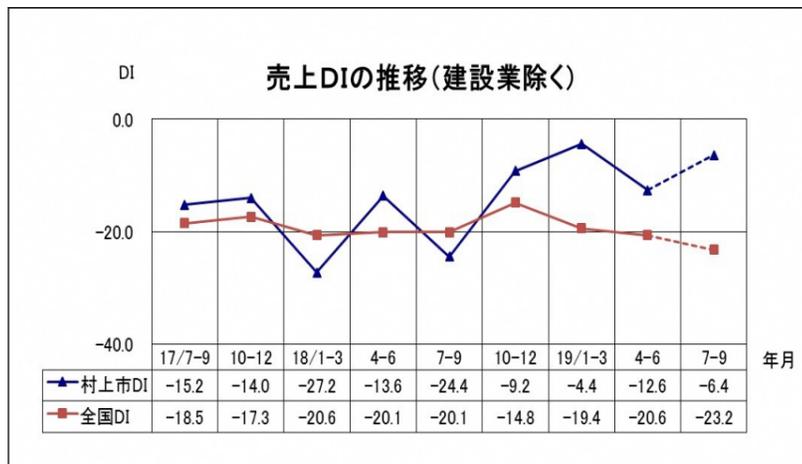
### 村上市・岩船郡内金融機関預貸状況





今期の業種別業況判断DIは前期比で、卸・小売業が、大型連休・改元の好影響もあったものの、地震に伴う観光産業の予約キャンセルの余波などもあり5.7ポイント、建設業が受注不振・人手不足等で12.7ポイント、サービス業も受注不振等で10.5ポイント、それぞれ減少した。製造業は高額製品の受注や人手不足対応の受注増加等で3.3ポイント、飲食・宿泊業も地震の影響を受けたものの大型連休の好調などで28.9ポイント、それぞれ上昇した。

来期は、卸・小売業を除く全業種で低下の見通し。寄せられたコメントに①9月は駆け込み需要があると思う(卸・小売業)、②工事量が少ない(建設業)、③コストダウン要請で大幅な価格変更を余儀なくされた(製造業)、④地震等による予約減少(飲食・宿泊業)、⑤例年より注文減少(サービス業)などがあつた。



今期の売上DI(建設業除く)は、前期に比べ8.2ポイント低下し、▲12.6となった。前期における今期予測よりも9.8ポイント下回ったが、前年同期比では1.0ポイント上回った。

全国DIは、前期に比べ1.2ポイント低下し▲20.6となった。

来期については、6.2ポイント上昇し、▲6.4となる見通し。

全国DIは、更に2.6ポイント低下し、▲23.2となる模様。

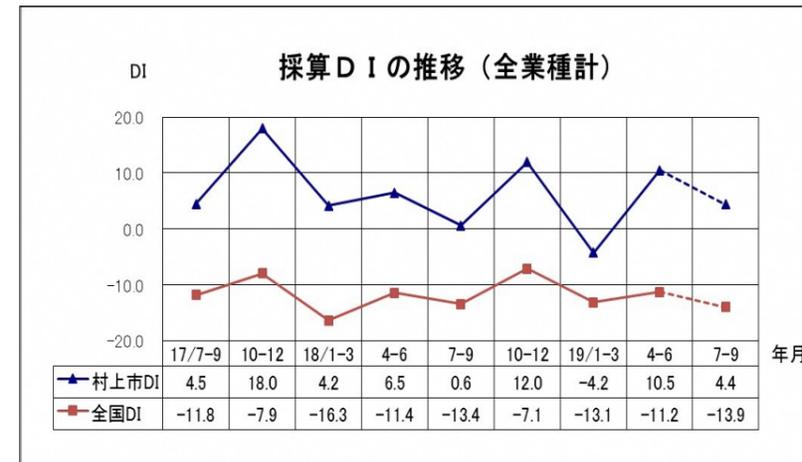


今期の受注DI(建設・製造業)は、前期に比べ12.3ポイント低下し▲13.5となった。前期における今期予測よりも3.5ポイント低下し、前年同期比でも1.5ポイント下回った。

来期については、更に9.8ポイント低下し▲23.3となる見通し。

〈DI内訳〉

	前期	今期	来期
建設業	▲6.5	▲6.2	▲35.5
製造業	19.3	▲19.3	▲3.8

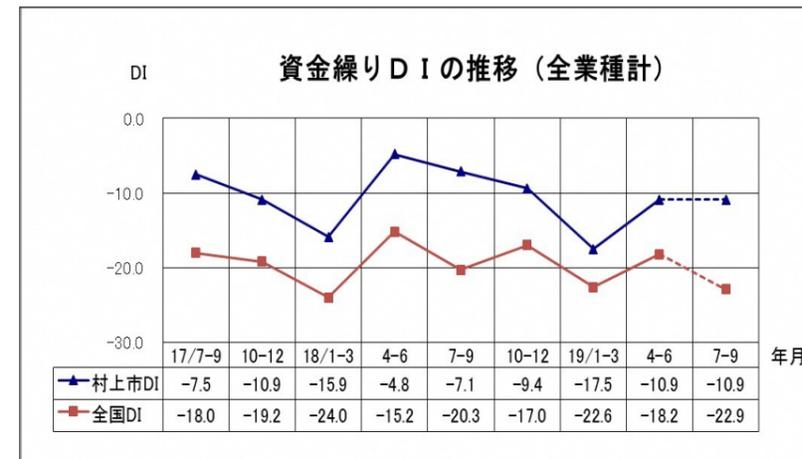


今期の採算DI(全業種計)は前期比14.7ポイントの上昇し10.5となった。前期における今期予測より8.0ポイント上回り、前年同期比でも4.0ポイント上回った。ここ14期一進一退が続いている。

全国DIも1.9ポイント上昇し、▲11.2となった。

来期については、6.1ポイント低下し4.4となる見通し。

全国DIも2.7ポイント低下し、▲13.9となる見通しである。

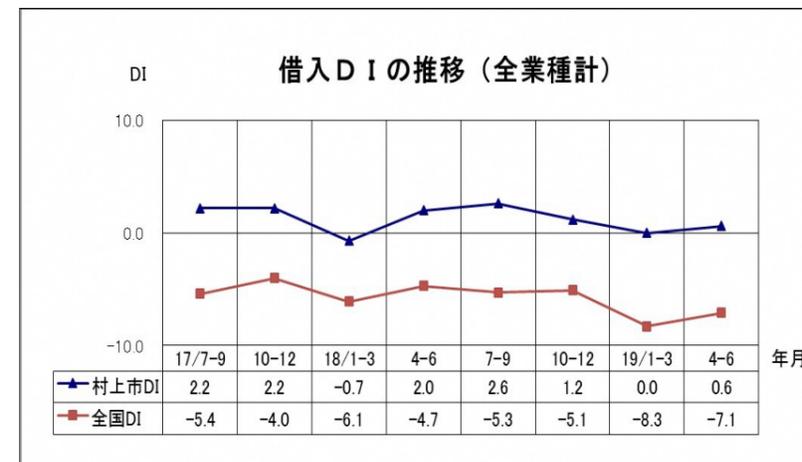


今期の資金繰りDI(全業種計)は前期比6.6ポイントの上昇で、▲10.9となった。上昇は4期振りだが、前期における今期予測より5.4ポイント下回り、前年同期比でも6.1ポイント下回った。

全国DIも4.4ポイント上昇し、▲18.2となった。

来期については、横這いで推移する見通し。

全国DIは4.7ポイント低下し、▲22.9となる見通しである。



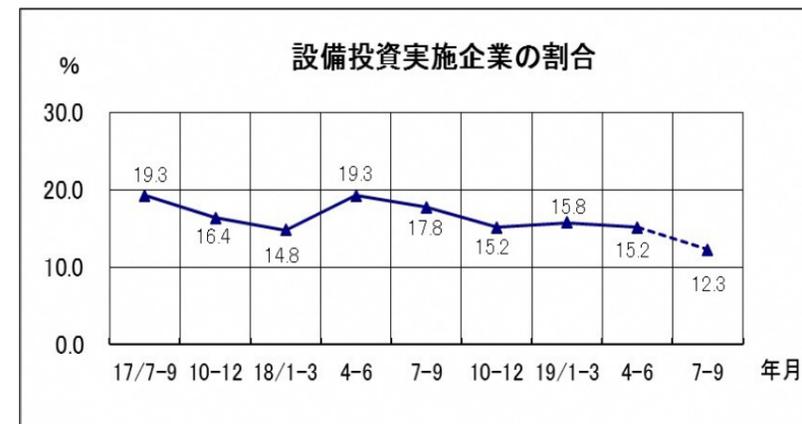
今期の借入DI(全業種計)は、前期と比べ、0.6ポイント上昇し、0.6となった。上昇は3期振り。

〈内訳は以下の通り〉

「容易になった」  
前期 1.8% → 今期 3.6%

「変わらない」  
前期 35.0% → 今期 46.4%

「難しくなった」  
前期 1.8% → 今期 0.0%



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期と比べ、0.6ポイント低下し、15.2%となった。前年同期比でも4.1ポイント下回っている。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、更に2.9ポイント低下し12.3%となる見通しである。